

2018年8月12~13日

安倍首相臨時国会に改憲案、総裁選、政局、沖縄、米朝・南北・日朝関係、戦争証言・記録

安倍首相、9条改憲「責任果たす」=自民案、次の国会提出を目指す

安倍晋三首相は12日、山口県下関市で講演し、「憲法に自衛隊を明記することで私は責任を果たしていく」と述べ、憲法9条改正に取り組む決意を表明した。また、「自民党としての憲法改正案を次の国会に提出できるよう、取りまとめを加速すべきだ」とも語った。9月の党総裁選で、憲法改正を主要な争点とする考えだ。

首相は、西日本豪雨で自衛隊が行方不明者の捜索や被災者支援に当たったことを紹介し、「黙々と献身的に任務を全うする彼らは日本国民の誇りだ」と述べ、自衛隊違憲論を批判した。

首相は同県長門市で2016年12月にロシアのプーチン大統領と会談したことに触れ、「領土問題を解決し、平和条約の締結を目指したい。日ロの新時代を切り開きたい」と述べ、北方領土問題の解決に全力を挙げる考えも強調した。(時事通信 2018/08/12-21:45)

自民改憲案「次の国会に提出」 首相、総裁選きっかけに
共同通信 2018/8/12 20:51



山口県下関市で講演する安倍首相=12日夕

安倍晋三首相（自民党総裁）は12日夜、地元の山口県下関市で講演し「自民党としての改憲案を次の国会に提出できるよう取りまとめを加速すべきだ」と述べた。9月の党総裁選に関し「党员の間で議論を深め、一致団結して前に進むきっかけになることを期待する」と指摘。一騎打ちが想定される石破茂元幹事長との論戦で、改憲を主要争点とするよう訴えた格好だ。

講演では、学校法人「森友学園」への国有地売却や「加計学園」の獣医学部新設の問題を巡り、国民から疑念を招いたとして「首相の立場が周囲に与え得る影響を意識する必要があると胸に刻み、慎重に政権運営に当たる」との考えを示した。

首相、改憲案「次の国会に提出を」 総裁選争点化に期待

朝日新聞デジタル太田成美 2018年8月12日 21時59分



講演する安倍晋三首相=2018年8

月12日午後、山口県下関市、太田成美撮影

安倍晋三首相は12日、地元・山口県下関市で講演し、自民党の憲法改正案について「次の国会に提出できるよう取りまとめを加速すべきだ」と語った。「総裁選が、党员の間で議論を深め、一致団結して前に進むきっかけとなることを期待する」と述べ、総裁選で改憲を争点にする姿勢を示した。

首相は自衛隊の明記や教育無償化など党の改憲4項目を挙げ、「いつまでも議論だけを続けるわけにはいかない」と主張。憲法9条への自衛隊の明記について、「全ての自衛官が誇りを持って任務を全うできる環境を整えることは、政治家の責任。自衛隊をしっかりと明記することで私はその責任を果たしていく決意だ」と意欲を示した。(太田成美)

安倍首相 「憲法改正案、次の国会に」山口県で講演

毎日新聞 2018年8月12日 20時52分(最終更新 8月12日 21時02分)

安倍晋三首相は12日、山口県下関市で講演し、憲法改正について「いつまでも議論だけを続けるわけにはいかない。自民党としての憲法改正案を次の国会に提出できるよう、取りまとめを加速すべきだ」と述べ、秋に予定される臨時国会で改憲論議が深まることに期待を表明した。

そのうえで「憲法改正は立党以来の党是だ。誰が総裁になろうとも責任を果たしていかなければならない。改正には極めて高いハードルを乗り越える必要がある。政治は結果だ」と指摘。9月の自民党総裁選で、憲法9条第1項（戦争放棄）と第2項（戦力不保持）を維持しつつ自衛隊の存在を明記する改憲案を訴え、党员に支持を広げる意向を示した。

首相はまた、昨年の衆院選で自民党の公約に掲げた幼児教育や高等教育の無償化について「(人づくりは)国家百年の計。憲法の中にしっかりと書き込んでいくべきだ」と述べた。【川辺和将】

自民改憲案「次の国会に提出」 首相、取りまとめ加速

日経新聞 2018/8/12 20:13

安倍晋三首相は12日、山口県下関市で講演し、憲法改正について「自民党としての憲法改正案を次の国会に提出

できるよう取りまとめを加速すべきだ」と述べた。秋に召集予定の臨時国会が念頭にあるとみられる。9月の自民党総裁選に関し「党员の間でしっかり議論を深め、一致団結して前に進むきっかけとなることを期待している」と述べた。

首相は自民党が3月にまとめた自衛隊の明記など4項目の改憲案を踏まえ「憲法の中に自衛隊をしっかりと明記することで責任を果たす」と強調した。総裁選に触れ「誰が総裁になろうとも責任を果たしていかなければならない」と訴えた。「憲法改正は立党以来の党是であり、全ての党员の悲願でもある」とも語った。

産経新聞 2018.8.12 20:19 更新

【長州「正論」懇話会設立5周年記念】安倍晋三首相、臨時国会に自民党改憲案提出を明言



山口県下関市で講演する安倍晋三

首相＝12日夕

安倍晋三首相（自民党総裁）は12日、山口県下関市内で開かれた長州「正論」懇話会の設立5周年記念会で講演し、自衛隊の憲法9条明記を盛り込んだ憲法改正案について「自民党として次の国会で提出できるよう取りまとめを加速する」と述べ、秋に予定される臨時国会への提出を明言した。

首相は、憲法改正は自民党の立党以来の党是であることなどに触れ、9月の党総裁選では「誰が総裁になろうとも、その責任を果たしていかなければならない」と強調した。また、総裁選が「党员の間でしっかりと議論を深め、一致団結して前に進むきっかけとなることを期待する」と述べた。

北朝鮮による日本人拉致問題については「いまだ解決できないということは私にとって痛恨の極みだ。しかし、私は安倍政権でこの問題を必ず解決するという強い決意で臨んでいる」と語った。その上で「最後は私自身が金正恩朝鮮労働委員長と直接向き合い、わが国が主体的に解決しなければならない」と重ねて述べた。

産経新聞 2018.8.12 05:00 更新

【主張】首相も「出馬」表明 9条改正大いに論じ合え 安倍晋三首相が地元山口県の会合で「6年前に自民党総

裁選に出た時の志はみじんも変わることはない」と述べた。

事実上の出馬表明である。10日に表明した石破茂元幹事長との一騎打ちとなる構図がはっきりと見えてきた。党内の幅広い支持を得ている首相の出馬は当然視されていたが、「3選」に向けて大いに政策論議を戦わせてほしい。

首相が外交・経済の基本路線を継続するとしても、政策の修正や強化の必要性について最大与党が定期的に検証することは欠かせない。石破氏との真正面からの議論を国民に示す必要がある。

注目すべきは、首相が憲法9条に自衛隊を明記する改正について「大きな責任を持っている」と語ったことだ。石破氏も同じく9条改正を主張するが、戦力不保持を定めた2項の削除を求める点で首相とは立場が異なっている。

9条改正について首相は「勇気を持って説明していきたい」と訴えたが、石破氏は「優先順位が高いとは私は思わない」と述べている。それでは期待する正面からの論戦とはなりにくい。

なぜ自衛隊を明記すべきかという根本的な意義を含め、この機会に両氏には、国民の前で分かりやすく論じ合ってもらいたい。

その前提として、北朝鮮や中国の動向など安全保障環境の大きな変化や、トランプ米政権との間での日米同盟のあり方についても認識を明らかにしてほしい。

保護主義を強める米国とどう付き合っていくか。自由貿易や民主主義の価値観が死活的に重要な日本にとっては文字通り、かじ取りにかかわる問題である。

首相は森友、加計問題にも触れて「再発防止を徹底的に進める」と語った。石破氏がこの問題を念頭に「正直、公正」を掲げたことも意識したのだろう。

佐川宣寿前国税庁長官の虚偽答弁や財務省の公文書改竄（かいざん）などは行政に対する国民不信を募らせた。問題を長引かせ、国会審議の停滞を招いた面も大きい。石破氏の問題提起を受け止め、論争を機会に行政の立て直しや信頼の回復を図らなくてはならない。

首相の政権基盤が強固となるなかで、党内の政策論議が停滞するきらいもあった。両氏の論争に連動し、支持する議員らも内外の政策を吟味し、論争を盛り上げることに腐心してもらいたい。

首相 自民党改憲案を次期国会提出へ 党内議論加速の考え

NHK2018年8月12日 22時15分



安倍総理大臣は山口県下関市で講演し、憲法改正について「いつまでも議論だけを続けるわけにはいかない」と述べ、次の国会に自民党の憲法改正案を提出できるよう党内議論を加速させたいという考えを示しました。

この中で安倍総理大臣は、憲法改正について「きたる総裁選挙が、党员の間でしっかりと議論を深め、一致団結して前に進むきっかけとなることを期待している」と述べました。

そのうえで、安倍総理大臣は「いつまでも議論だけを続けるわけにはいかない。活発な党内議論のうえに、自民党としての憲法改正案を次の国会に提出できるよう取りまとめを加速すべきだ」と述べ、次の国会に自民党の憲法改正案を提出できるよう党内議論を加速させたいという考えを示しました。

さらに安倍総理大臣は、みずからの政治姿勢について「安倍一強と言われているが、私は極めて融和的な人間だ。党内で徹底的に議論し、その結果をベースに進めてきた。大きな改革ほどしっかりと国政選挙で問い、国民の皆さんの支持を得て実行に移していく」と述べました。

石破元幹事長「きちんと議論が必要」

来月の自民党総裁選挙への立候補を表明している石破元幹事長は、12日夜、東京都内で記者団に対し「安倍総理大臣が憲法改正を総裁選挙の論点にしたいと言っており、全く反対するつもりはないが、急ぐものや、多くの党の理解が得られるものから、やるべきだ」と述べました。

また、石破氏は、安倍総理大臣が次の国会に自民党の憲法改正案を提出できるよう、党内議論を加速させたいという考えを示したことについて「まだ党議決定もなにもしておらず、もう1度きちんと議論することが必要だ。最低限、党議決定のプロセスが必要だと思う」と指摘しました。

JNN 8月13日 5時間前

安倍首相、地元の講演で「改憲は立党以来の党是」

安倍総理は12日夜、地元・山口県で講演を行い、憲法改正への強い意欲を改めて示しました。来月行われる自民党総裁選挙の争点にもなりそうです。

「憲法改正は立党以来の党是であり、全ての党员の悲願でもあります。誰が総裁になろうとも、その責任を果たしていかなければなりません」（安倍首相）

安倍総理はこのように述べ、憲法改正への強い意欲をにじませました。また、「いつまでも議論だけを続けるわけにはいかない」として、憲法改正案を次の国会に提出できるよう、とりまとめを急ぐ考えを示しました。

「党としても、仮に国会に提案するとすれば、まだ党議決定も何もしていない。党議決定のプロセスは最低限必要だと思います」（自民党・石破茂 元幹事長）

一方、石破・元幹事長は「憲法改正には丁寧な議論が必要だ」と強調しました。また石破氏は、自身を改憲論者と

した上で、「憲法9条に自衛隊を明記しても権限などは変わらない」とする安倍総理に対し、「何も変わらない改正をすべきではない」と指摘しました。

9月に行われる自民党総裁選が安倍総理と石破氏の一騎打ちの見通しとなる中、憲法改正が争点の一つとなりそうです。

首相、臨時国会に憲法改正案の提出目指す

NNN2018年8月12日 22:32

安倍首相は、山口県下関市で講演し、自民党の憲法改正案について、秋に予定される臨時国会への提出を目指す考えを示した。

全文を読む

安倍首相は、山口県下関市で講演し、自民党の憲法改正案について、秋に予定される臨時国会への提出を目指す考えを示した。

安倍首相「いつまでも議論だけを続けるわけにはいきません。これまでの活発な党内議論の上に、自民党としての憲法改正案を次の国会に提出できるよう、とりまとめを加速すべきであると考えています」

安倍首相は、また、自衛隊や教育無償化の明記が自民党の憲法改正についての公約になっていることをあげ、「約束を必ず守る、実行に移すのが自民党だ」と、その実現に強い意欲を示した。

さらに、「どう憲法改正を実現するのか。来月の自民党総裁選挙が、しっかりと議論を深め、一致団結して前に進むきっかけとなることを期待している」と述べ、総裁選でも憲法改正について議論すべきとの考えを強調した。

また、「誰が総裁になろうとも、公約実現の責任を果たしていかなければならない」と述べ、自衛隊の明記に消極的な石破元幹事長をけん制した。

憲法改正への意欲表明 「取りまとめを加速すべき」

FNN08/13 00:35

安倍首相は、地元の山口県で講演し、次の国会に憲法改正案を提出できるよう、自民党内の取りまとめを加速させる考えを表明した。

安倍首相は、「憲法の中に、わが国の独立と平和を守ること、自衛隊をしっかりと明記することで、私はその責任を果たしていく決意であります」と述べた。

安倍首相は、さらに、「自民党としての憲法改正案を次の国会に提出できるよう、取りまとめを加速すべきだ」と述べ、憲法改正への強い意欲を示した。

そのうえで、安倍首相は、経済指標を挙げるなどして政権運営の実績をアピールし、9月に行われる総裁選への出馬を表明した石破元幹事長をけん制した。

「アベグジット」は後退か？ 風見鶏

安倍晋三政権の内閣支持率が回復し9月の自民党総裁選で安倍首相の3選を支持する声広がっていることを受け、金融市場では「アベグジットが遠ざかった」と安堵の声が聞かれる。

「アベグジット」とは「Abe」と「exit」の造語で「安倍首相の退陣」を意味する。昨年、学校法人「森友学園」問題が拡大した頃から海外の投資家や金融機関で使われた。



外国人投資家にとって「安倍首相の退陣」は「他の先進国では類をみない安定政権の終わり」（米証券大手）を意味し、さらに「アベノミクスの終焉（しゅうえん）」と同義だ。

日銀による異次元緩和策に代表されるアベノミクスで市場は円安・株高となり、上場企業は増収増益。有効求人倍率はバブル期並みの水準にまで回復した。アベグジットは、こうした日本の経済・金融政策が大きく変化すると警戒感を高めるとともに、日本が「1年ごとに首相が代わる」政治に先祖返りしかねない「リスク」にうつる。

そうしたリスクシナリオにつながる円高のトリガーについて、三菱UFJモルガン・スタンレー証券の石井純氏はこれまで「アベグジット相場、すなわち大胆緩和の幕引きによる円高／株安基調」を想定していた。だが、6月28日付のレポートでは「首相の3選の確実性が高まってきた」として、円高・株安を招くリスク要因を「トランプ米政権のドル安政策、または円安批判」に変更した。

ただ、ここにきて首相の3選が確実視されればされるほど「任期満了を待たずにアベグジットが意識されかねない」と指摘する声もでてきた。

内閣府で政策企画・経済調査に携わったキャリアを持つUBS証券の青木大樹氏は、首相が強い意欲を示す憲法改正が現実味を帯びつつあることに着目。改正のための国民投票のタイミングを警戒する。

国民投票は最近では、時の政権を終息させるリスクになっている。英国ではキャメロン首相が「ブレグジット」（英国の欧州連合からの離脱）の是非を問う国民投票を行い、思惑に反して離脱派が勝利し辞任。イタリアでも、憲法改正を求めるレンツィ首相が国民投票で否決され退陣した。

青木氏は「国民投票で改憲が否決されれば、安倍首相が辞める可能性が一気に高まる」として、来年4月30日の天皇陛下の退位と5月1日の皇太子さまの即位に伴う儀式や、10月の消費増税、2年後の東京五輪・パラリンピックなどから逆算し、国会での発議や国民投票の日程を注視する。

ただ、国民投票によるアベグジットへの警戒をよそに、国会での改憲論議は深まっていない。改憲案は衆参両院の憲法審査会での議論を経て発議されるが、ネックは与野党の合意形成を基本とする審査会が政局に左右される点だ。

審査会は「与党は度量をもって、野党は良識をもって議論するのがルール」（自民党議員）とされているが、先の通常国会では野党側が森友学園や学校法人「加計学園」問題などの追及を優先させ審査会の開催に応じず、実質的な審議は参院での1回だけ。衆院では行われなかった。

さらに言えば、政界では国民投票はおろか、市場関係者が懸念するほどにはアベグジットリスクは意識されていない。安倍政権が続く限りアベグジットはない——と皆が思っているからだ。しかし、「ポスト安倍政権の誕生」と言い換えることもできるアベグジットは、安倍政権の次を担う顔ぶれや打ち出す政策自体がリスクになり得る点を忘れてはいけない。（編集委員 木村恭子）

安倍首相 総裁選3選に向け立候補に強い意欲 NHK8月12日 11時19分



安倍総理大臣は、山口県長門市にある父親の安倍晋太郎元外務大臣の墓参りをしたあと、来月の自民党総裁選挙への対応について、「さらに重責を担っていくという判断をしていきたい」と述べ、3選に向けて立候補に強い意欲を示しました。

11日から地元、山口県を訪れている安倍総理大臣は、12日午前、昭恵夫人らとともに、長門市にある父親の安倍晋太郎元外務大臣の墓を訪れ、線香を手向け静かに手を合わせました。

このあと安倍総理大臣は、地元の支援者らを前にあいさつし、自民党総裁選挙への対応について、「この6年間、国民のため、そして日本国のために全力を尽くしてきたが、この夏、しっかりと考え抜きながら、さらに重責を担っていくという判断をしていきたい」と述べ、3選に向けて立候補に強い意欲を示しました。

これに先立って安倍総理大臣は、海に向かって123基の朱色の鳥居が並び、去年1年間の観光客数が100万人を超えた長門市の人気スポット、元乃隅稲成神社を参拝し、観光客との記念撮影に応じていました。



11日から地元、山口県を訪れている安倍総理大臣は、12日午前、昭恵夫人らとともに、長門市にある父親の安倍晋太郎元外務大臣の墓を訪れ、線香を手向け静かに手を合わせました。

このあと安倍総理大臣は、地元の支援者らを前にあいさつし、自民党総裁選挙への対応について、「この6年間、国民のため、そして日本国のために全力を尽くしてきたが、この夏、しっかりと考え抜きながら、さらに重責を担っていくという判断をしていきたい」と述べ、3選に向けて立候補に強い意欲を示しました。

これに先立って安倍総理大臣は、海に向かって123基の朱色の鳥居が並び、去年1年間の観光客数が100万人を超えた長門市の人気スポット、元乃隅稲成神社を参拝し、観光客との記念撮影に応じていました。

安倍首相 総裁選3選に向け立候補に強い意欲

NHK2018年8月12日 11時19分

安倍総理大臣は、山口県長門市にある父親の安倍晋太郎元外務大臣の墓参りをしたあと、来月の自民党総裁選挙への対応について、「さらに重責を担っていくという判断をしていきたい」と述べ、3選に向けて立候補に強い意欲を示しました。

11日から地元、山口県を訪れている安倍総理大臣は、12日午前、昭恵夫人らとともに、長門市にある父親の安倍晋太郎元外務大臣の墓を訪れ、線香を手向け静かに手を合わせました。

このあと安倍総理大臣は、地元の支援者らを前にあいさつし、自民党総裁選挙への対応について、「この6年間、国民のため、そして日本国のために全力を尽くしてきたが、この夏、しっかりと考え抜きながら、さらに重責を担っていくという判断をしていきたい」と述べ、3選に向けて立候補に強い意欲を示しました。

これに先立って安倍総理大臣は、海に向かって123基の朱色の鳥居が並び、去年1年間の観光客数が100万人を超えた長門市の人気スポット、元乃隅稲成神社を参拝し、観光客との記念撮影に応じていました。

竹下氏、石破氏支持を表明...会合出席者に要請も

読売新聞 2018年08月12日 20時08分

自民党の竹下総務会長は12日、9月の党総裁選で石破茂・元幹事長を支持する意向を表明した。地元の島根県出雲市で開かれた県議らとの会合で示したもので、出席者にも石破氏を支援するよう要請した。

出席者によると、竹下氏は非公開の会合で、党内の支持が連続3選を目指す安倍首相（党総裁）に偏ることの弊害を指摘し、「来年の統一地方選、参院選で必ずしっぺ返しを食らう」と述べたという。

党の多様性を示すため、石破氏支持に回って首相への批判の受け皿となる狙いがあるとみられる。

竹下氏が率いる竹下派（55人）は事実上の自主投票を決めており、衆院議員（34人）の多くは首相、参院議員はほぼ一致して石破氏をそれぞれ支持する方向だが、竹下氏の態度表明で石破氏支持に回る衆院議員が出てくる可能性がある。

産経新聞 2018.8.12 23:20 更新

【自民党総裁選】竹下亘氏、石破茂氏支持を表明 地元・島根の会合で



自民党の竹下亘総務会長（田中一世

撮影）

自民党の竹下亘総務会長は12日、9月の党総裁選で石破茂元幹事長を支持すると表明した。地元の島根県出雲市で開催した会合で、出席した県議に意向を伝えた。竹下氏が会長を務める党第3派閥の竹下派は事実上の自主投票を決めている。

出席者によると、会合は非公開で、竹下氏と親しい県議が参加した。竹下氏は「多様な意見が戦わされることを期待する」と述べたという。

竹下氏は当初、竹下派を石破氏支持でまとめた意向だったが、衆院側で首相を推す声が大勢を占め、断念した。参院側の大半は石破氏を支持する見通しとなっている。

産経新聞 2018.8.13 00:02 更新

【自民党総裁選】石破茂氏「ありがとうを200回でも300回でも…」 竹下亘氏の支持表明に

自民党の石破茂元幹事長は12日夜、9月の党総裁選をめぐり竹下亘総務会長が石破氏支持を表明したことを受けて、『ありがとうございます』と100回で足りなければ、200回でも300回でも言いたい。思いに応えることが

私の責務だ」と謝意を表した。東京都内で記者団に語った。

石破氏は「田舎を大切にしなければならないとの思い、財政健全化に対する思いを共有しながら、やっていきたい」と述べ、自主投票を決めた、竹下氏率いる竹下派（平成研究会、55人）に石破氏支持を呼びかけていく考えを示した。

旧民進の国会議員、相次ぎ合宿...低下する存在感

読売新聞 2018年08月12日 18時09分

旧民進党出身の国会議員グループが夏以降、相次いで合宿を開く。かつて同志だったメンバーは立憲民主党、国民民主党、無所属へと散り散りになっており、各グループの存在感低下には歯止めがかかりそうにない。

先の衆院選で民進代表だった国民の前原誠司・元外相が

率いるグループ「**りょううん 凌雲会**」（約10人）は6、7両日、兵庫県内で合宿を行った。6日夜に懇親会を開き、翌7日には明石市長と面会し、市が先進的に取り組む子育て支援策について意見交換した。

しかし、参加者は国民や無所属の議員6人にとどまった。民主党政権当時、約70人を抱えた会の勢いはもはやない。前原氏は今後の活動について、記者団に「自然体でやる」と語るにとどめた。

しんぶん赤旗 2018年8月12日(日)

翁長氏の志継ぎ 新基地造らせない 沖縄県民大会 7万人



(写真) 手をつないでがんばろうをする県民大会の参加者＝11日、那覇市

沖縄県名護市辺野古に新基地を造らせないと、病床で亡くなるまでたたかい続けてきた故・翁長雄志知事の志を受け継ぎ、新基地建設断念の声を上げ続けようと、「土砂投入を許さない！ジュゴン・サンゴを守り、辺野古新基地建設断念を求め8・11県民大会」が11日、那覇市の奥武山（おうのやま）公園陸上競技場で開かれました。この日、沖縄に連帯して北海道から鹿児島まで全国で、集会や宣伝、スタンディングなどの行動が取り组まれました。

台風14号が接近し、ときおり強い雨が降りしきる中、県内外から7万人（主催者発表）が参加。「新基地NO」「県

民はあきらめない」と書いたメッセージボードをいっせいに掲げ、安倍政権が17日にも強行を狙っている辺野古への土砂投入に反対する強い意志を示しました。

知事職務代理の謝花喜一郎副知事は、4日に翁長氏と面談した際、「私が『一日一日、公務をこなし、県民の負託に応えたい』と言ったのは『撤回』のことで」と話していたと紹介。「この知事の思いを深く受け止め、私たちも辺野古に新基地を造らせないという公約の実現に向けてとりくみたい」と述べ、埋め立て承認撤回に前向きな姿勢を示しました。

翁長氏と高校の同級生だったという城間みきこ那覇市長は「彼はウチナンチュの心に寄り添ったウチナンチュの心を体現、表現する行動をしてきた。承認撤回に向けて、手の届きそうどころまであったと思う。本当に無念だったと思う。その遺志を私たち一人ひとりが引き継いでいきたい」と訴えました。

大会では決議が採択され、新基地建設の断念を求めました。

日本共産党から小池晃書記局長、赤嶺政賢・田村貴昭両衆院議員、真島省三前衆院議員、仁比聡平参院議員、県議団が参加しました。

土砂投入を許さない！ジュゴン・サンゴを守り、辺野古新基地建設断念を求め8・11県民大会決議（全文）

国は、8月17日からの辺野古地先への埋め立て土砂投入を沖縄県へ通知した。現在行われている環境アセスを無視した数々の違法工事は、仲井真前知事が退任の4日前に承認した追加申請によるものである。沖縄県は、沖縄防衛局に対し、再三にわたり工事実施前の事前協議を行うことを求めてきたが、沖縄防衛局はこれを無視し十分な説明を行うことなく、沖縄県民の民意を踏みにじり、環境破壊につながる違法工事を強行し続けている。

7月27日、翁長沖縄県知事は「埋め立て承認撤回」を表明し、8月9日に聴聞を開始した。ただちに国は埋め立て工事を中止し、新基地建設計画を断念すべきである。

私たちは安倍政権と沖縄防衛局に対し強い怒りを持って抗議する。私たちは豊かな生物多様性を誇る辺野古・大浦湾の美ら海に新たな基地を造らせない。沖縄県民の命とくらし、沖縄の地方自治と日本の民主主義と平和を守るためこの不条理に対し全力で抗い続ける。

今県民大会において、以下、決議し、日米両政府に対し、強く抗議し要求する。

記

1、ジュゴンやウミガメなどの生きていくための豊かな海藻場や希少なサンゴ類の生息環境を破壊する土砂投入計画を直ちに撤回すること。

2、大浦湾側には活断層の疑いがあり、その付近の海底には、超軟弱地盤が存在する。辺野古新基地の立地条件は成り立っていない。建設計画を直ちに白紙撤回すること。

3、沖縄高専、久辺小・中学校、集落は、米国の安全基準である高さ制限に抵触している。児童生徒と住民の生命と財産を脅かす新基地建設を直ちに断念すること。

4、欠陥機オスプレイ配備を撤回し、米軍普天間基地を即時閉鎖・撤去すること。

5、欠陥機オスプレイの国内における飛行を直ちに全面禁止すること。

宛先 内閣総理大臣
外務大臣
防衛大臣
沖縄及び北方対策担当大臣
米国大統領
駐日米国大使

2018年8月11日

辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議

しんぶん赤旗 2018年8月12日(日)

県民が心を一つにすれば はるかに大きな力になる 翁長知事の「遺言」 次男・雄治氏が代弁

「沖縄は試練の連続だった。しかし、一度もウチナーンチュ(沖縄県民)の誇りを捨てることなくたたかってきた。ウチナーンチュが心を一つにしてたたかうときには、おまえが想像するより、はるかに大きな力になる」

父・翁長雄志氏から何度も聞かされてきた言葉です。次男・雄治(たけはる)氏は11日の県民大会に登壇し、「遺言」を代弁しました。

「最後の最後まで、どうやったら辺野古新基地を止められるのか。病室のベッドの上でも資料を読みあさり、がんばっていた」という翁長氏。雄治氏は、常日ごろ、父が周囲に訴えていた言葉を紹介します。

「沖縄に、辺野古に新基地をつくる。どれほど大義名分があるのか。全国に置いておけないから沖縄に置けばいい。今、われわれが納得できないものを将来の子どもたちに、残してしまうのか」

雄治氏は、決意と覚悟を表明しました。「『国の専権事項』だからといって、いま責任を持っているわれわれが何もせず指をくわえてみているわけにはいかない。『オール沖縄』は、ウチナーンチュの強い決意であり、覚悟です。その民意に、われわれ政治家が突き動かされている。父に、辺野古新基地が止められたと報告できるように、頑張りましょ

う!」

雄治氏は、翁長氏が大会で着用するはずだったエメラルドグリーンの帽子を、舞台に用意されていた椅子の上に置きました。

しんぶん赤旗 2018年8月12日(日)

新基地反対 全国各地で呼応行動 東京では2800人



(写真) 沖縄県民大会に呼応しデモ行進する人たち＝11日、東京都内

が連帯

東京都豊島区では「沖縄県民大会に呼応する8・11首都圏大行動」(同実行委員会主催)が開かれ、主催者発表で約2800人が参加しました。

県民大会の音声が一部同時中継され、知事職務代理の謝花喜一郎副知事が、翁長知事の熱い思いを受け止めると語ると、大きな拍手と指笛で応えました。

「沖縄環境ネットワーク」世話人の花輪伸一さんは、「一刻も早く埋め立て承認が撤回され、土砂投入をストップさせることを何よりも強く期待し、支持したい。翁長知事の遺志を引き継ぎ、沖縄の人々、全国の市民と連帯してたたかいを継続し、より一層盛り上げ、新基地建設を中止に追い込みたい」と述べました。

「戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会」の藤本泰成さんは、米兵による事件や米軍機墜落を挙げ「米軍基地は沖縄県民の命を脅かす以外の何物でもない。沖縄と連帯して、命を脅かす全てを日本、沖縄から排除しよう」と力を込めました。

都内の大学3年の女子学生(20)は、昨年訪れた辺野古で座り込む市民らが機動隊によって強制排除されたことに衝撃を受けたと紹介。「沖縄の問題は、沖縄だけの問題にしてはいけない。政府に近い東京だからこそ、発信しなくてははいけない」と呼びかけました。

日本共産党の吉良よし子、山添拓の両参院議員、池内さおり前衆院議員が参加しました。

しんぶん赤旗 2018年8月12日(日)

翁長知事の「撤回」支持 環境監視等委員会元副委員長

東清二氏がメッセージ 沖縄防衛局の“新基地ありき”を告発

「翁長知事の埋め立て承認『撤回』を支持します」
一。沖縄県那覇市で11日に開かれた辺野古への土砂投入に反対し、新基地建設断念を求める県民大会で、沖縄防衛局が工事による環境への影響などを「監視検討」するとして設置している環境監視等委員会副委員長を辞職した東清二琉球大学名誉教授のメッセージが読み上げられました。



東氏は同委員会の「基地建設ありき」の運営に耐えられず辞職。これをめぐって同局からうけた「口封じ」の生々しい体験を告発しました。「口封じ」は「しんぶん赤旗」（6月4日付）がスクープ報道したものの。

東氏はメッセージで「環境監視等委員会でちゃんと監視できると期待したが、ウミガメの産卵場所やジュゴンの食草などの分布、密度、ジュゴンが何頭いるのかの調査を依頼したが全然返事がない。発言しても議事録に載らない」と指摘。「環境監視と言いながら工事を進めること以外には耳を貸さない。何のための委員会か、と2015年3月に辞めると伝えた。沖縄防衛局から『この件で取材があれば事務局に聞いてくれと答えなさい』と言われた」と改めて告発しました。

環境監視等委員会は、仲井真弘多知事（当時）が沖縄防衛局の公有水面埋め立て申請を「承認」の条件として設置されたものです。

東氏は、国内外で著名な昆虫の専門家。メッセージをこう結んでいます。

「辺野古、大浦湾の埋め立てはやめさせることだ。中止すべき。沖縄にこれ以上の軍用基地はいらない」

（山本真直）

13日に知事選日程決定＝沖縄県選管

沖縄県は12日、翁長雄志知事が8日に死去したと県選挙管理委員会に通知した。県選管は13日に臨時会を開き、知事選日程を決める。公職選挙法は通知から50日以内に知事選を実施すると規定しており、「9月6日告示・同23日投開票」か「9月13日告示・同30日投開票」の日程が有力となっている。（時事通信 2018/08/12-19:12）

宜野湾市長選に副市長出馬へ＝沖縄

沖縄県宜野湾市の松川正則副市長（64）は12日、佐喜真淳市長の知事選出馬に伴い行われる同市長選への出馬を表明した。同市で開かれた会合で、「佐喜真市政を継承し、宜野湾市をさらに前進発展させることが必要だ」と述べ、

自民党県議らでつくる候補者選考委員会の立候補要請を受諾した。市長選は同市の米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設などが争点となる見通しで、移設反対派も候補者擁立を目指している。

会合には佐喜真氏も出席し、「選挙の日には、はっきりしていないが、知事選と同時になるだろう」と語った。（時事通信 2018/08/12-17:33）

副市長、現職後継で出馬へ 沖縄・宜野湾市長選 共同通信 2018/8/12 18:54



沖縄県宜野湾市の佐喜真淳市長（左）の後継として市長選に立候補する意向を固めた松川正則副市長＝12日、宜野湾市

沖縄県宜野湾市の松川正則副市長（64）は12日、県知事選への出馬を表明している佐喜真淳市長の後継として市長選に立候補する意向を固め、自民党の自治体議員らによる選考委員会の出馬要請を受諾したと明らかにした。

松川氏は記者団に、同市にある米軍普天間飛行場に関し「危険性の除去は訴えていきたい」と強調。米軍から返還された西普天間住宅地区の跡地利用を推進する考えを示した。

関係者によると、佐喜真氏は週内にも市長辞職に向けた手続きを始める。

「その仕事、沖縄でやってください」政府が提案

読売新聞 2018年08月12日 13時46分

政府は来年度から、沖縄で県外の会社員が長期滞在しながら働く「テレワーク」の誘致に乗り出す。沖縄の地域振興につなげる狙いがある。

テレワークは、テレビ会議などを活用して職場以外で働く仕組みだ。

政府は、沖縄が持つ観光地としての魅力を生かし、観光シーズンの夏はワーク（仕事）とバケーション（休暇）を組み合わせた「ワーケーション」と呼ばれる働き方を提案する。夏以外にも、本州よりも暖かい冬や、スギ林が少ないため花粉症に悩まされることが少ない春のテレワークも呼びかける。

ふだん県外で勤務する人が一定期間、沖縄で過ごせば、地元での消費拡大が見込めるほか、空きオフィスの活用なども期待できる。

政府は誘致に向け、9～11月に名護市のマンションを

借り上げ、実証実験を行う。首都圏のIT企業などで働く約20人が期間中、2週間滞在するという。実験結果を踏まえ、来年度の本格誘致に向けた取り組みを考える。

参加者向けにマンションの部屋だけでなく、仕事に必要なプリンターやインターネットなどを備えたスペースも用意する。その代わりに、地元への経済効果を検証できるよう、参加者には滞在中に出費した食事代などを記録してもらう。

日中平和友好条約40周年 関係発展へ北京でシンポジウム NHK2018年8月12日 5時07分



日中平和友好条約の署名から12日で40年となります。中国・北京では、これにあわせて両国の専門家らが参加するシンポジウムが開かれ、今後の日中関係の発展に向けて意見を交わしました。

日中平和友好条約は1978年8月12日に北京で署名され、12日は40年の節目に当たります。

これに合わせて11日、北京では中国の政府系シンクタンクが主催してシンポジウムが開かれ、日中の専門家ら100人以上が参加しました。

この中で、2008年から5年間、外交を統括する国務委員を務めた戴秉国氏は条約の意義を強調したうえで「中国と日本のような影響力のある隣国の関係には平和、友好、協力のほかに選択肢はない」と述べ、歴史問題などに適切に対応し、経済や文化の交流を通じた関係強化を呼びかけました。

また、中国駐在の横井裕大使は「大切なのは日中平和友好条約の初心を忘れないことだ。『競争から協調へ』をキーワードとして、日中関係を発展させていきたい」と述べ、年内の安倍総理大臣の訪中やその後の習近平国家主席の訪日に向け調整を進める考えを示しました。

このほか、日中の専門家らが発表を行い、ハイレベルの交流を活発化させることや第三国でのインフラ整備をはじめ経済の協力を進めることなど、両国関係の発展に向けて意見を交わしました。

中国外務省「安定した発展の推進望む」

中国外務省は12日で日中平和友好条約の署名から40年になるのにあわせて、NHKの取材に対して書面でコメントを出しました。

この中で、日中平和友好条約について「両国の平和、友好、協力の方向性を明確にし、両国関係の長期的な発展の政治的基礎を強固なものにした」として意義を強調しています。そのうえで、これまでの40年の日中関係について「両国

の国民に着実な利益をもたらし、地域と世界の繁栄、安定を力強く促進した」と評価しています。

そして、「日本には中国とともに条約の精神に立ち返り、正確な方向性を堅持し、政治的な基礎を強固にして友好、協力を進め、両国関係の長期的で、健全かつ安定した発展を推進するよう望む」として、今後の関係発展にも前向きな姿勢を示しています。

鳩山氏が安倍総理を痛烈批判「世界から失笑を...」 ANN2018/08/12 10:32

鳩山元総理大臣は北京で行った講演で安倍総理大臣の対中政策に触れ、「右手で握手しながら左手でげんこつを握れば真の友情は生まれません」と痛烈に批判しました。

鳩山元総理大臣：「安倍首相は、常に東アジアの安全保障状況はますます厳しさを増すばかりとこのうたい文句で、日米同盟の強化や自衛隊の配備の増強を図っている」

11日、北京で開かれた国際シンポジウムに出席した鳩山元総理は尖閣諸島について、日中間では事実上棚上げされてきたと指摘し、「歴史に照らして今一度、棚上げすべき」と話しました。中国が進める一帯一路構想については「習近平主席は、目的は平和をもたらすことだと述べた」として、日本は大いに協力すべきと強調しました。さらに、安倍総理の対北朝鮮政策についても、「対話の時代は終わった」と述べ、世界から失笑を買った」と批判しました。

日中平和友好条約40年 交渉記録した音声テープ見つかる NHK2018年8月12日 17時08分



40年前、日中平和友好条約の交渉に当たった元外交官が、条約交渉の模様をみずからの肉声で記録した音声テープが新たに見つかりました。この中には、両国がともに覇権を求めないとした内容を条約に盛り込むことについて、中国の当時の最高実力者、※トウ小平氏が「永遠に覇権を求めないよう中国を拘束するものだ」など、中国の大国化を見通すかのような発言をしたことなどが記録されています。



日中平和友好条約は、1972年の国交正常化を受けて交渉が行われ、ちょうど40年前の1978年8月12日に中国・北京で両国間で署名が行われました。

この条約交渉に参加していた、北京にある日本大使館の元公使、堂ノ脇光朗さんが、交渉のもようをみずからの肉声で記録した音声テープが新たに見つかりました。

堂ノ脇さんは3年前に亡くなり、音声テープは長らく埋もれていましたが、遺品の整理をしていた家族が見つかりました。

カセットテープ9本に13時間余りに及ぶ録音は、堂ノ脇さんが、いわば「備忘録」のような形で個人的に録音したもので、条約交渉が大詰めを迎えた1978年1月から8月ごろまでのものが記録されています。

このうち、署名の2日前の8月10日に、当時の園田外務大臣と中国の当時の最高実力者、※トウ小平氏との間で行われた会談では、両国がともに覇権を求めないとした内容を条約に盛り込むことについて、※トウ氏が「将来、中国が強くなったときでも永遠に覇権を求めないよう中国を拘束するものだ」など、中国の大国化を見通すかのような発言をしていたことがわかります。

また、当時も中国が領有権を主張していた沖縄県の尖閣諸島について、※トウ氏は、「この問題は、横に置いてゆっくりと討論したらよい。数年、数十年、百年置いてもかまわない」と述べ、条約交渉で取り上げること控えよう主張し、園田大臣が「日本の立場は承知のとおりだ」と述べるなど、生々しいやり取りが記録されています。

この音声テープについて、日中平和友好条約の交渉過程に詳しい桜美林大学の李恩民教授は、「記憶の新しいときに録音された音声テープは、公式記録や回顧録とは異なる新しい形の貴重な資料だ。文字で記録された外交記録と合わせれば、歴史の真相に迫ることができる」と話しています。

専門家「トウ氏の生々しい言葉 大変貴重」

中国政治に詳しい東京大学公共政策大学院院長の高原明生教授は、この音声テープについて、「これまでよく知られていなかった※トウ小平氏らの発言を語ったもので、大変貴重な記録だ」と話しています。

そして高原教授は、両国がともに覇権を求めないとした内容を条約に盛り込むことをめぐって、※トウ氏が「永遠に覇権を求めないよう中国を拘束するものだ」などと述べたことについて、「両国間でどんな紛争が起きても、武力や、武力による威嚇で問題を解決しないことが両国関係の基礎中の基礎であることを※トウ氏が生々しい言葉で強調していたことがわかる。実力をもって自分の意思を他者に押しつけてはならないと後世の指導者に対して言っていたとも理解できる発言だ」と指摘しています。

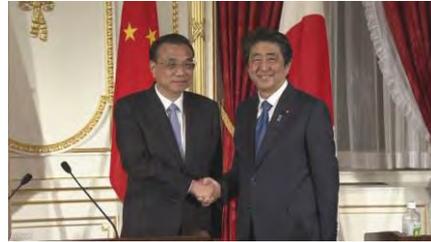
さらに高原教授は、中国艦船による日本の領海への侵入が依然として続いていることは条約の精神にそぐわないとして、「日中平和友好条約の締結から40年になることし、日

中双方が改めて条約の内容に思いをはせ、日中関係の基礎を壊さないよう努力すべきだ」と話しています。

※トウは「登」に「おおざと」

日中平和友好条約40年 年内の首相訪中などで関係改善目指す

NHK2018年8月12日 16時19分



日中平和友好条約が署名されてから、12日で40年です。政府は、安倍総理大臣による年内の中国訪問に向けた調整や、経済分野での新たな協力関係の構築を加速させることなどを通じて、関係改善に弾みをつけたいとしています。日中両国が互いの主権や領土を尊重することや、友好関係を発展させることなどを盛り込んだ「日中平和友好条約」は昭和53年8月12日に署名され、今年12日で40年になります。

沖縄県の尖閣諸島の国有化をきっかけに冷え込んでいた日中関係は、このところ首脳や閣僚レベルの対話が活発に行われるなど改善が進んでいて、今月、シンガポールで行われた外相会談では、双方が「正常な軌道に戻った」と表現し、首脳の相互往来の実現を目指すことで一致しました。政府は、年内に安倍総理大臣の中国訪問を実現するよう調整し、その後の習近平国家主席の日本訪問につなげたいとしています。また、第三国での経済協力を進めるため、官民合同の委員会を開催するなど、経済分野での新たな協力関係の構築を加速させる考えです。

一方、中国による東シナ海のカス田開発や、尖閣諸島周辺での領海侵入などの問題については、当局間の対話を積み重ねていくことで解決の道筋を探り、関係改善に弾みをつけたいとしています。

首脳会談の時期など合意期待＝南北閣僚級協議で韓国政府

【ソウル時事】韓国大統領府の金宜謙報道官は12日、板門店で13日に開かれる北朝鮮との南北閣僚級会談で、次回南北首脳会談の「時期や場所、訪朝団の規模などについて合意することを期待している」と述べた。

4月の南北首脳会談で署名された「板門店宣言」は「文在寅大統領が秋に平壤を訪問する」と明記しているが、会談時期が前倒しされるという観測も流れている。

金報道官は記者団に対し「根拠なく期待を表明しているわけではない」と語り、水面下の南北協議で時期などに関し、大卒の合意に達したことを示唆。会談場所に関しては

「平壤ではなく、第三の場所で行われるような報道が多く、困惑している」と指摘、平壤の可能性が高いことを明らかにした。(時事通信 2018/08/12-17:25)

拘束男性は39歳、滋賀県出身か 北朝鮮で 共同通信 2018/8/12 11:57



北朝鮮・南浦

北朝鮮で現地当局に拘束された日本人男性について、映像製作の仕事に関わっている滋賀県出身の39歳とみられることが12日分かった。日本政府関係者が明らかにした。北朝鮮西部の港湾都市・南浦で軍事施設を撮影した疑いをかけられた可能性も浮上。政府は情報収集を急ぐとともに、北京の大使館ルートを通じて早期釈放を求めている。

関係者によると、男性は外国の旅行会社が企画したツアーを利用し、今月上旬から北朝鮮入りしていた。過去にも北朝鮮に渡航していたとの情報もある。

北朝鮮で邦人39歳拘束、「交渉カード」の見方も 読売新聞 2018年08月12日06時57分

北朝鮮で、日本人男性が現地当局に拘束されていることが分かった。日本政府関係者が11日、明らかにした。男性は39歳の映像クリエイターで、中国の旅行会社を利用して入国したとみられる。政府は拘束の経緯について情報収集を急ぐとともに、北京の大使館ルートを通じて身柄の早期解放を求めている。

日本政府は北朝鮮による日本人拉致問題の解決に向け、
キムジョンウン
安倍首相と金正恩 朝鮮労働党委員長との直接対話を模索している。政府内には「北朝鮮が拘束した男性を交渉カードとして使い、日本に揺さぶりをかけてくる可能性もある」(関係者)との見方が出ている。

北朝鮮は1999年12月に元新聞記者の日本人男性をスパイ容疑で拘束し、2002年2月に解放するまで、約2年2か月抑留した例がある。日本政府は対北朝鮮制裁として、日本国民に北朝鮮への渡航自粛を要請している。

朝鮮半島出身者の遺骨 韓国に返還へ 都内で追悼式 NHK2018年8月12日20時24分

日本で亡くなった朝鮮半島出身者の遺骨が韓国に返還されることになり、12日、都内で追悼式が行われました。現在の北朝鮮の地域に故郷がある人の遺骨も含まれることから、

北朝鮮との軍事境界線近くに納骨されるということです。



追悼式は、戦前から戦中にかけて朝鮮半島から日本に来て、日本で亡くなった人たちの遺骨を保管してきた東京 東村山市の国平寺で行われ、遺骨の返還に取り組んでいる韓国の市民団体のメンバーなど60人余りが参加しました。

読経のあと、参加者が今回返還される35人の遺骨を持って境内を1周し、韓国の伝統にのっとりて供養しました。今回返還される遺骨の中には、現在の北朝鮮の地域に故郷がある人のもも含まれるため、今月16日、北朝鮮との軍事境界線に近い韓国北部のパジュ(坡州)にある墓地に納骨されることになっています。

朝鮮半島出身者の遺骨をめぐるのは、ムン・ジェイン(文在寅)政権に近い別の民間団体が北朝鮮側と連携して返還を進めることで合意し、日本政府と協議したいという意向を示しています。

これについて、国平寺のユン・ピョガム(尹碧巖)住職は「故人の祖国である南北が争ってきましたが、南北が一緒になって遺骨の返還に取り組む平和な時代が来たことをうれしく思う。国交のない日朝の関係も改善するきっかけになってほしい」と話していました。

警官一家7人心中、祖父は校長を辞職した 戦争の罪深さ 朝日新聞デジタル鹿野幹男 2018年8月12日07時57分



久保田京巡查一家の慰霊のために建てられた親子地蔵=茨城県常総市鴻野山



茨城県常総市（旧飯沼村）出身の杉本恭子さん（72）＝東京都狛江市＝は3年前、「広河村異聞 戦前・戦中茨城県教育史」を発売した。心中した警察官一家、国民学校長を辞職した祖父……。戦時中の価値観が崩れ、動揺する人々の様子を克明に記している。

常総市鴻野山の水生寺の一角。大小二つの地蔵が並んで立ち、目の前の県道を行き交う車を見下ろしている。由来を記す裏面には「殉ぜられた」との文言がある。戦時中、寺の向かいにあった駐在所に勤務し、敗戦直後に命を絶った久保田京巡查一家7人の霊を弔う「親子地蔵」だ。

杉本さん（旧姓篠崎）はそこから歩いて5分かからない家で生まれ育った。

実家を出て都内に住んでいた1970年、23歳の時、祖父の憲三さんが75歳で世を去った。「これでおじちゃんの一生は終わったのか」。臨終を見届けた祖母とよさんが、うつろな表情でつぶやいた。その一言が耳から離れなかった。

憲三さんは杉本さんが生まれた46年、勤めていた国民学校の校長職を辞職。気丈なとよさんに比べ、子どもの頃に接した憲三さんの印象は薄い。戦争体験を語ることもあまりなかった。「なぜ、校長を辞めなければならなかったのか」。疑問を抱いて、祖父の時代をさかのぼって調べたところ、久保田巡查一家の心中事件が、辞職の引き金になったことを知った。

久保田巡查は敗戦から2日後の1945年8月17日、妻と子ども6人と心中を図り、子ども1人を除く一家7人が亡くなった。遺書には「敗戦国民として生きる希望を失った」という趣旨の文言が書かれていたという。

憲三さんは心中事件があった晩の遅くまで、村長と巡查の3人で話し込んでいたという。憲三さんの死後、とよさんから初めて聞く話だった。「心中をとめられなかったことに責任を感じたのでは」。とよさんは杉本さんにそう語った。

さらに調べるうちに、巡查の子どもと直前に会っていた女性を探しだした。心中を目にした子どもはどんな様子だったのか、証言を求めた。尋ねた途端、穏やかな口調が一変し、「あなたは当時の空気をなにも分かっていない」と激しい口調で質問を遮られた。

正しいとされた軍国主義が一夜にして否定され、精神的な混乱を強いられる。女性の反応に、戦争の罪深さを思い知った。

ケアマネジャーの仕事を7年前に退職。時間ができて本格的に執筆に取り組んだ。地元や国会図書館で集めた資料は衣装ケース一箱分。歴史を専門的に学んだ経験はない。文章の書き方はカルチャーセンターで覚え、戦後70年の2015年7月に自費で出版した。

出版に難色を示した親戚も今では「よく書いてくれた」と喜んでくれるという。思い立ってから出版まで45年の歳月を要した。杉本さんは「人は生まれる時代を選べない。

自分もあの時代に生きていたら、軍国少女になっていたかもしれない。戦争に巻き込まれた地域の歴史を未来のために知ってもらいたい」と話している。「広河村異聞」は1500円（税別）。発行は青山ライフ出版（03・6683・8252）。（鹿野幹男）

米軍 日本軍の偽装見破り東北の軍事施設を空襲

毎日新聞 2018年8月12日 16時35分(最終更新 8月12日 16時35分)

1945年8月9、10日に東北各地の軍事施設などが狙われた空襲で、攻撃を担った米海軍第38任務部隊が、上空からの発見を免れようと日本軍が飛行場を田や住宅地のように偽装したり、戦闘機を林の中に隠したりしていた工作を見破り、空爆したとする報告書が見つかった。この空襲は、米軍が同年11月に予定していた九州上陸作戦を前に日本の航空戦力破壊を狙った戦略の一環とみられる。

【山田研】

空襲の実態を調べる「空襲・戦災を記録する会全国連絡会議」事務局長の工藤洋三さん＝山口県＝が米公文書館から入手した米海軍の報告書の写しを分析して明らかにした。

山形県真室川町の真室川飛行場では、第38任務部隊が8月10日朝の空爆で、隠された日本軍の4戦闘機を機銃掃射。飛行場近くに隠された60機以上も見つけ、20機以上を破壊した。さらに撮影したフィルムを軽空母に持ち帰り、現像、解析したところ、周辺の林にも飛行機が隠されていることが判明。同日午後には別の空母の艦載機も加わった大規模な空襲が展開された。

報告書には、迷彩色の機体を樹木の間に置いたり、上に木をかぶせるなどして「(上空から見た)景色と一体化させていた」とあり、戦果に関して「金鉱だった」との記述や、分散秘匿場所を矢印で示した写真もある。

9日に空襲した同県東根町の神町飛行場を翌10日に空撮した2枚の写真には、いずれも「9機の双発機を破壊」した場所を示す書き込みがある。滑走路から北西部と南西部にそれぞれ延びる飛行機の誘導路に囲まれた林の中で戦闘機を見つけ、1隻の艦載機だけで20機体を破壊、11機体に損害を与えた。報告書には「分散秘匿された場所で数機が炎上するのは珍しくないが、数多くが一度に炎上したのを見たのは初めて」との証言があり、日本軍が多数の戦闘機を隠していたことが分かる。

奥州市の小山飛行場には10日の攻撃時に日本軍機はなかったが、米兵を驚かせる偽装工作があった。報告書には「滑走路に芝を植え込んで、あぜ道のように工夫し、稲に見立てた雑草なども植えられていた」「(下側に)車をつけた農家3棟を500メートル間隔で滑走路上に起き、飛行機発着時には運び出す」「樹木もそれぞれ鉢に入れて車をつけ、滑走路を林のように見せる仕掛けになっていた」とあり、偽装例の写真も紹介されている。

第38任務部隊の上部組織の海軍第3艦隊の報告書には「日本軍が東北に飛行機を集結させている」との陸軍情報が記載されており、工藤さんは、一連の東北空襲を「45年11月に予定していた九州上陸作戦の前に1機でも多くの日本軍機破壊を目指した」と分析する。

工藤さんは先月、45年2月以降の米英軍の攻撃を体系的に分析した「アメリカ海軍艦載機の日本空襲」を自費出版している。

ヒロシマの空 祖母の8月6日演じる 26歳女性、朗読も

毎日新聞 2018年8月12日 08時30分(最終更新 8月12日 08時30分)

原爆で両親と弟を失った悲しみをつづった詩「ヒロシマの空」の作者、林幸子さん(故人)の孫で通信社記者の中山涼子さん(26)が、原爆詩人・峠三吉(1917～53年)のもとに集った若者の姿を描いた群像劇「河」に出演している。若き日の祖母がモデルの役を演じ、詩も朗読する。「被爆者の思いを伝えたい」。昨年12月の初舞台に続き、9月に京都市である公演に向け、稽古(けいこ)に励んでいる。

「ああ お母ちゃんの骨だ／ああ ぎゅつとにぎりしめると 白い粉が 風に舞う／お母ちゃんの骨は 口に入れると さみしい味がする」

林さんは45年8月6日、学徒動員先の現在の広島市西区で16歳の時に被爆。自宅にいた母と弟を失い、放射線障害で父を亡くした。戦後、峠が結成した「われらの詩の会」に参加し、「ヒロシマの空」を書いた。その痛切な内容から後に女優の吉永小百合さんらが朗読し、知られるようになった。

東京育ちの中山さんは幼稚園の頃に林さんが被爆者と知った。「祖母は家族の前で決して被爆体験を語らなかった。あまりにつらかったのだと思う」。詩を読み、その過酷な体験を知った。林さんは2011年に死去。「このままでは祖母の被爆体験を知る人がいなくなる」と感じ、記者を目指した。時事通信社に入社し、2015年10月に希望して広島支社へ赴任した。

取材の中で、市民団体「広島文学資料保全の会」代表の土屋時子さん(70)に出会った。群像劇「河」は劇作家だった土屋さんの夫清さん(故人)の作品(1963年初演)。朝鮮戦争前後の広島を舞台に、再び核兵器の脅威にさらされる時代の若者らの苦悩を描く。

中山さんは、昨年12月にこの劇が約30年ぶりに広島市で上演される際、土屋さんから林さんがモデルの「市河睦子」役を依頼された。演劇経験はなく「原爆投下から数年後の若い被爆者の気持ちを想像するのは難しい」と悩んだが、共演者に励まされて演じきった。

劇では120行にわたる「ヒロシマの空」を朗読する。

中山さんは「これまでの取材で聞かせてもらった被爆者の思いを私なりに劇で表現したい」と誓う。

京都公演は9月8、9日。問い合わせは「保全の会」の池田正彦さん(080・6328・7615)。**【元田禎】**

麗しの島から 日本人よ、私たちに忘れないで 毎日新聞 2018年8月12日



日本軍の軍属として従軍した頃を回想する趙中秋さん。「僕の話聞いてください」と何度も繰り返した＝台湾南部・高雄市で2018年7月8日午前9時55分、福岡静哉撮影



陸軍病院で従軍看護婦として勤務した頃を振り返る廖淑霞さん＝2018年7月2日午後2時27分、福岡静哉撮影



1944年、上海の陸軍病院で働いていた頃の廖淑霞さん(右)＝廖淑霞さん提供



廖淑霞さんの郵便貯金の証明書。昭和21（1946）年2月22日付で、1566円の残高が証明されている。氏名は日本名の「廖淑子」となっている＝2018年7月2日午後2時12分、福岡静哉撮影

終戦からまもなく73年。軍人や軍属として戦争に参加した台湾人の大多数が90代となり、生存者はわずかとなっている。台湾籍元日本兵・軍属は、戦争中は「日本人」として約20万人以上が従軍し、3万人以上が戦死した。だが戦後、台湾が日本領でなくなったため、十分な補償を今も受けられないままだ。軍属としてミャンマーなどで従軍した趙中秋（ちょう・ちゅうしゅう）さん（90）＝南部・高雄市＝と、上海の陸軍病院で従軍看護婦だった廖淑霞（りょう・しゅくか）さん（90）＝台北市＝に今の思いを聞いた。

「お国のため、天皇陛下のため」と軍属に志願

「僕の話聞いてください」。趙さんは取材中、私の目をじっと見て、何度も何度も繰り返した。すべて流ちょうな日本語だ。

1928年3月生まれ。日本による台湾統治が始まって30年以上がたっており、すでに日本語教育が行き渡っていた。「日本人として、お国のため、天皇陛下のため」と志願し、軍属として従軍した。43年3月、高雄港を出発し、ビルマのラングーン（現在のミャンマー最大都市ヤンゴン）に着いたのは同年5月末。ビルマやタイで主に建設工事を担った。ジャングルでの行軍も経験した。「食べ物が本当になくて、栄養失調やマラリア、かっけで同じ部隊の者がバタバタと死んでいった」

しかし、それ以上に過酷だったのは戦後だった。敗戦後も混乱の中ですぐに帰国することはできなかった。結局、食料がほぼ尽きた状態でタイとミャンマーの国境付近で3年近く、同じ部隊の数人と共にサバイバル生活を続けた。

食料調達には主に趙さんが担ったという。「姿勢をこうして、魚をこう、投げるわけですよ」。趙さんは、川で大型の魚を見つけた時の奮闘ぶりを、身ぶり手ぶりを交えて語ってくれた。「今、ちょっと年いってるから無理かもしれないが、こうして、サッと！ これくらいの早さで」。90歳とは思えない素早い身のこなしで、魚をつかみ、抱えて放り投げる

様子を再現した。山中では動物を探した。「9メートルはある大蛇を穴から引っ張り出して、銃剣で殺して、腹を割いたら中からアヒルが5羽も出てきた。アヒルも蛇も焼いて食べた。蛇でもトカゲでも口に入るものは何でも食べました」と振り返る。

「僕は日本人としての責任を果たした。不公平だ」

48年、帰国を果たした。だが台湾は既に「日本」ではなくなり、蒋介石率いる国民党による独裁統治が始まっていた。趙さんら台湾籍の元軍人・軍属はもはや日本人ではなくなったため、日本人の元軍人・軍属が戦後に受給した軍人恩給は受けられなかった。趙さんは建設会社などで働き、妻と力を合わせて娘6人を育て上げた。

台湾籍元日本兵らの要望を受け、日本政府は88年度以降、戦病死者らを対象に1人200万円の弔慰金を支払った。だが、日本人戦死者遺族の受給額とは大きな開きがあった。台湾籍元日本兵らは1人あたり500万円の補償を求めて日本で裁判も起こしたが、92年に最高裁で敗訴が確定した。

趙さんは語気を強めて言った。

「僕は日本人として命がけで働き、日本人としての責任を果たした。軍属として最前線まで行った。兵隊以上の仕事をしてきた。（日本政府は）日本人には補償をする。台湾人は（日本国のために）尽くさなかったというのですか？不公平だ。日本として無責任です。僕は何回も何回も日本に行ってお願ひした。外務省も行った。厚生省（現厚生労働省）にも行った。政治家のところにも行った。『政治問題』と言われた。政治と私たち、何の関係がありますか！ 憤慨します！ なにゆえ、その資格がないのですか。僕はあと何年生きられるか分からないけど、こういう人がいるということを、日本の皆さんに話したい。私たちを忘れないでほしい」

「私の夫も日本のために志願した。日本は皇民化に成功したよ」

従軍看護婦として日本陸軍が上海に開設した病院で働いた廖さんも、趙さんと同じ思いだ。台北市の自宅で話を聞いた際、「台湾人に生まれて悲しいよ」と漏らした。

27年11月生まれ。父の仕事の関係で39年、上海に渡って日本人居留地に住んだ。日本人向け小学校と女子商業学校で学んだ。卒業後は海運会社で働いていたが、日本軍の要求で44年6月から十分な訓練もないまま従軍看護婦として働かされた。重傷や重病の兵士の手当てに追われる日々を過ごした。戦況は日に日に悪化した。廖さんも決戦に備え、三八式歩兵銃やなぎなたの扱い方を教えられた。B29の爆撃が相次ぎ、歩けない患者を防空壕（ごう）へ運ぶ日々だった。同僚の朝鮮半島出身の少女は爆撃で死んだ。

給与は強制的に貯金させられ、事実上の無給だったという。終戦時、当時の日本円で1566円の残高があったが、

敗戦で引き出せなくなった。「当時なら家が1軒建つくらいの金額だった」と廖さん。47年、台湾に引き揚げた。敗戦によって未払いとなった戦時郵便貯金の支払いを求める元日本兵らの要求が実り、廖さんも2000年、半世紀ぶりに貯金を受け取ることができた。だが物価変動を踏まえた換算率はたったの120倍。手元に残ったのはわずか19万2340円だった。廖さんは「日本が貧乏なら、もらわなくてもいい。でも日本は経済大国なのに。バカにしている」と憤る。

廖さんは小学校の卒業アルバムを取り出し「ここを見てください」と指で示した。そこにはこう記してある。「皇民訓 君ノ為ニハ血ヲ流セ」。「天皇のためには血を流せと書いてある。私たち、学校で尽忠報国（忠節を尽くし、国から受けた恩に報いること）と教えられた。私の夫も日本のために志願した。日本は皇民化に成功したよ。戦争は間違ってるね。戦争がなかったらたくさんのは亡くならなかった」

趙さんと廖さんの一言一言が、胸に突き刺さった。2人にとってあの戦争は今もまだ、終わっていない。【福岡静哉】

JNN12日17時02分

日系人強制収容、98歳が証言「今だから話せる」

まもなく終戦の日です。太平洋戦争中、アメリカの人種差別的な政策で強制収容された日系人の中には、戦後、同じ日系人からも白い眼を向けられた人たちがいます。「今だから話せる」と、98歳の男性が苦い記憶を語りました。

カリフォルニア州北部・ツールレイクの日系人強制収容所跡地。6月、追悼式典が行われました。

「父は死ぬまでツールレイク収容所での経験について語らなかった」（式典参加者）

「両親はノーノーだったから」（式典参加者）

アメリカは太平洋戦争中、日系人12万人を「敵性外国人」として10か所の強制収容所に押し込めました。ツールレイクは、その中でも特別な収容所でした。

ちょうど30年前、当時のレーガン大統領が、署名をして日系人の強制収容について正式に謝罪しました。しかし、その謝罪後もツールレイクに収容された人が自らの経験を語ることはほとんどなかったといえます。

ロサンゼルスに住む日系二世、ビル・ニシムラさん（98）。

「絶対にキャンプ（ツールレイク強制収容所）の話は誰にも話さない気持ちでした。悪者とみられたんですよ。なぜ悪者とみられたかという・・・、ノーノー」（ビル・ニシムラさん）

「ノーノー」とは、戦時中、アメリカ政府の忠誠テストで「米軍入隊の意思はあるか」「天皇への忠誠を捨て、アメリカに忠誠を誓うか」の2つの質問に「ノー」または無回答だった日系人のことです。

「私はアメリカ人であることを認めます。しかし、日本の天皇も敬います」（ビル・ニシムラさん）

23歳だったビルさんは、2つの質問を「無回答」としました。その結果、収容された先がツールレイク。そこはアメリカに忠誠を誓わなかった日系人を隔離するための強制収容所で、待っていたのは過酷な生活でした。

「（ツールレイクで）トラックを運転していた日系人が射殺されたのです。口答えしたから」（ビル・ニシムラさん）

終戦後、米軍に志願した日系人は英雄扱いされた一方で、「ノーノー」と答えたツールレイクの収容者は、「トラブルメーカー」「不忠誠」と同じ日系人からさえも白い眼を向けられたといいます。

「差別されましたよ。ノーノー組は認めてもらえなかった」（ビル・ニシムラさん）

家族への影響を恐れて長く沈黙を守ってきましたが、98歳の今は・・・。

「この話は続けていかなければいけない。将来の若者のために」（ビル・ニシムラさん）